

# 歴史講座 報告『村田町のこと』

日 時：10月18日土曜日の9時30分から11時30分 会 場：浜野会館

講 師：今井公子(本会会員)

参加者：15名

はじめに…村田村についての江戸時代史料は非常に少ない。

村田川の洪水などで 田畑のみならず建物も流され、村田村に所在した文書や記録も失われたようである。ここでは、他の村々に残る史料などや、宍倉健吉先生や佐倉東雄氏の著作書籍や『千葉市史史料編3近世』などから抜き書きでまとめた村田村の概要である。

くという事で他の町や村に残された記録から村田についての考察です>

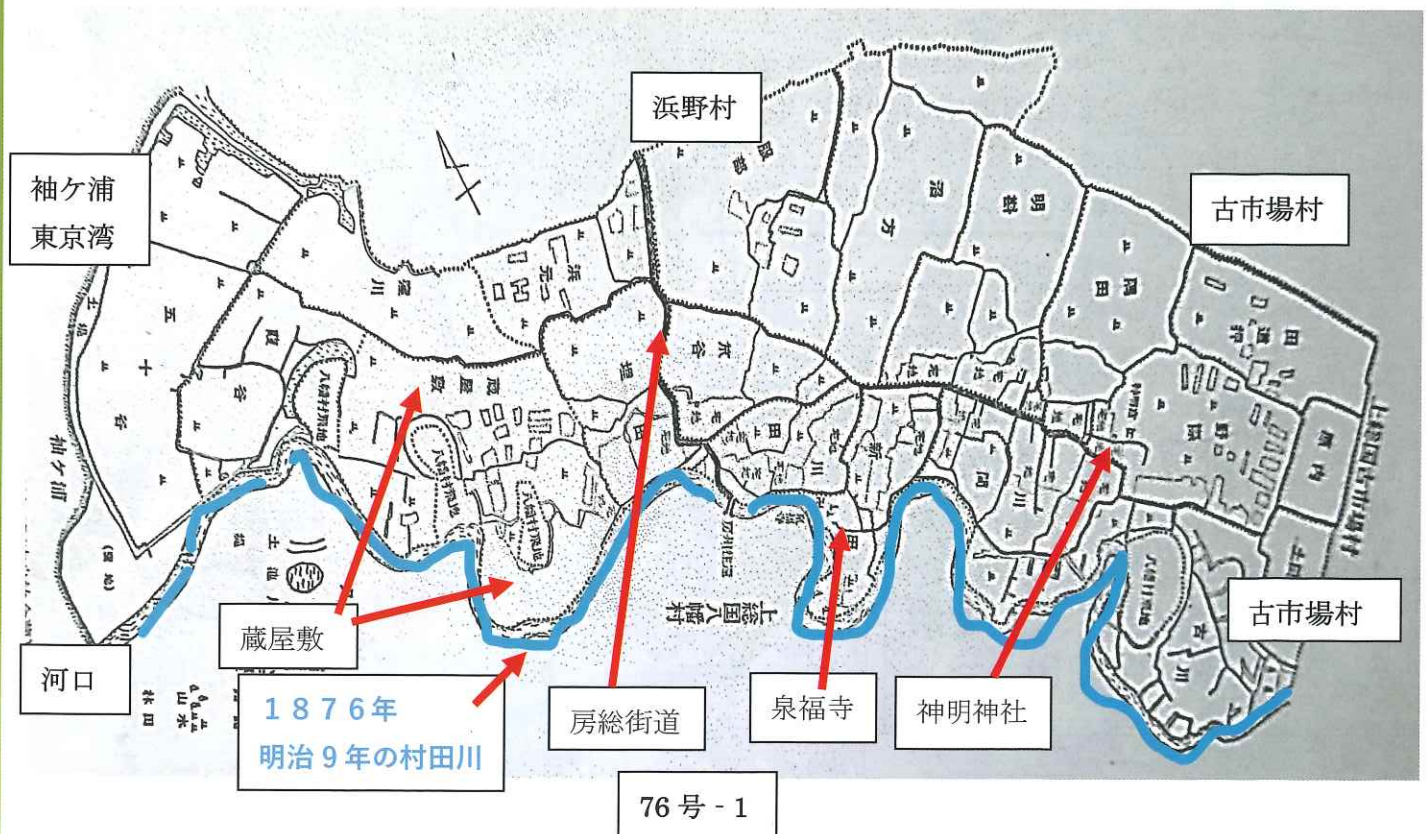
- 村田についての記録文書・・・水戸の徳川光圀の旅の日記  
・・・「高野山日記」(国学者・間宮永好)

## ●村田川について・・・

1953(昭和28年)3月 村田川改修工事5か年計画開始

土気の下を流れてきたこの川は「蛇行」を繰り返してきた歴史がある。高いところから低いところに落ちた川は「蛇行」するのは自然である。

- ・「蛇行」は洪水を繰り返しながら川の流れも変化してきた。
- ・草刈に堰を作り浜野・塩田方面に水路を施してきた。
- ・江戸時代には川の傍に「蔵屋敷」を置いて、村田川を利用して運搬作業をしていた。
- ・1606(慶長11年) 村田村は、五井村の塩を東金・大網・本納の市で商う。(大久保忠佐によって長南・一之宮・茂原・本納・大網に市が開かれ、君塚村・岩之見村・松ヶ島村・神崎村・八幡村・御所村・村田村・塩田村の8村が五井村の塩を商うことを認められた。)『千葉県史料近世篇 上総国上』235
- ・下総と上総の国境であるこの川には橋はなく、川幅20間歩いて渡っていた。大水の時は舟で渡る。(現在の金額にして60円ほど)





## ●浦方(うらかた)総論について・・・

- ・海の利用権利についてのもめごとが起こる。1823(文政6年)4月6日
- ・キサゴ(螺子)・・・潮間帯の砂底に生息する巻貝で、直径約3cm以下の低円錐形の殻を持っています。当時田んぼの肥料として使われていた。
- ・「キサゴの掻き取り」で、八幡村の一存で村田・浜野の浦を超え、生実浦へ150間も入り込んで掻き取りをしていたことでのめごと。

●その他、「漁具争い」「助郷騒動(交通争論)」「村方騒動」等江戸時代の村人の生活の様子がリアルに浮かびあがるお話でした。

村田川の源流をたどると・・・

千葉県茂原市・長生郡長柄町境の長柄ふる里村付近に源を発し、北流して市原市・千葉市に入り緑区大木戸町付近で方向を西に転じ、再び市原市の高田地区に流入。草刈、古市場を経て、八幡海岸の埋立地で東京湾に注ぐ。

## 歴史散歩報告

村田町を歩く 生浜地域の「青少年育成委員会」との併催行事です

日時：11月8日土曜日 9:30～11:30

参加者 21名

浜野駅から旧神明神社跡地を確認して、村田川のほとりを歩き泉福寺住職のお話をお聞きしました。村田の渡し跡や、水かけ石(庚申信仰(こうしんしんこう))、最後に新しく移転した神明神社を見学して、そこで解散しました。約7000歩。





## 村田神明神社移転の経緯

都市計画道路の建設による。1995(平成7年)に「平成通り」の千葉市側の区間(村田川から国道16号まで)が「千葉都市計画道路事業3・3・8村田町線」として認可されたことによる。

●「平成通り」とは京葉臨海工業地帯を支える国道16号線に並行する形で千葉・袖ヶ浦間を結ぶ都市間幹線道路として、また同工業地帯が被災した際の緊急輸送道路として、1964(昭和39年)にその建設計画が策定された。その整備は昭和40年代から順次、工区ごとに進められてきていた。

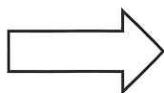
●神明神社の境内の半分ほどが建設予定地にかかることとなっていたため、神社の移転が問題となった。

●神社移転問題対策委員会を立ち上げ検討してきた。神社に対する町民の思いは様々なうえ、経済情勢等の変化により20年余りが経過した。

●平成30年(2018)移転の合意に達する。令和2年(2020)1月用地売買契約を結び、同年2月に地鎮祭、同年6月に社殿の上棟祭。令和3年(2021)3月遷座するに至る。



◆旧社殿



◆新社殿

## 公開座談会 報告

生浜の疑問?質問?思い出話? 日時:11/15 土曜日 9:30~11:30 会場:浜野会館 参加者 15 名

### 第2回座談会のまとめ ①

●浜野の街並みとしては、

・浜野町は戦前の世帯登記は230戸。【現在2674世帯、人口6397人…人口統計ラボより】

・いわゆる「浜野銀座」と称される通りがあった。辻町を主とする「大正屋」から「平野屋」までの通り。その他・浜野駅前通り・浜野三軒屋通り・浜野南町通り・浜野北町通り、などもある。…これらの地域で「浜野商店会」という組織があり、「商店街活性の活動」を展開していた。

そのひとつがスタンプシール(水につけて台紙に張る小さいシール)を台紙に張って台紙枚数に応じて値引きや団体旅行招待があった。また街灯を店ごとに建てて通りを明るくにぎやかにした。くじ引き大会で商品提供。しかしその後「スーパー・ヤックス」ができたのを契機に浜野商店会は解散となる。

・生実の者は、買い物は「蘇我の」(蘇我)に行った傾向である。

・南生実は? 南生実は本郷・郷中・〇〇に分かれていて郷中に石橋商店がありそこで買物。

●塩田町について

・もとは「生実二区」と呼ばれて生実の中にあった。昭和30年千葉市との合併の時に独立町名となり現在に至る。。

・満徳寺はもとは生実の千葉工業高校の裏手にあった。国鉄房総東線(=外房線)



当時町角に貼られていた手書きのポスター

(文責・白井孝)



の列車からの火の粉で焼失してしまった。そして現在は塩田町に移る、でもその跡地はあり、別院として残る(塩田の住職が通い)墓地もある。塩田町の満徳寺の管理下にある。

・塩田町为天満宮の板碑(=供養碑)は現在所在不明となってしまうが、地域誌9号に記事がある(文責・白井孝)

●村田町は神明神社の移転が完成したことは大きな出来事である

●西小第一回卒業生は、西小新設時の4年生である。当時生浜小3年生を修了して4年生として西小に移る。西小の初年度は4年生・3年生・2年生が生浜小から移って来て、浜野町・村田町・塩田町から新入生の1年生が入学するという構成。

…東小も同様の形態で新設されただろうとのこと…(東小第一回卒業生は元巨人軍監督の高橋由伸さん)(文責・白井孝)

.....

今回の会議で、《地域活動と課題について》話題になりました。長島洋二さんから以下のようにお話をいただきましたので、2025年の現状を記しておきたいと思います。

### ●生浜の自治活動について

#### 1. 「生浜地区地域運営委員会」

生浜地区には様々な団体があり、地域の活動を支えています。

生浜地区で活動する様々な団体や個人が、お互いの活動状況を相互に理解しつつ、地区の課題を共有して将来像や地域の実情に合った活動の在り方について、話し合い、継続的かつ計画的に「助け合い・支え合い」による地域運営を進めることを目的とする組織です。

平成27年4月26日、64団体が参加して設立され、現在理事会のもと、高齢者・要支援者部会、青少年部会、防災部会、スポーツ部会の4部会で活動を行なっている。

#### 2. 地域課題

① 見守り活動 ② ゴミ出し支援、買い物支援 ③ バス路線の本数の削減など、これらは、生浜地区だけでなく多くの地域での課題でもある。

#### 3. 組織上の課題

担い手の問題。地域活動を支えている人の高齢化と組織を支えている担い手不足。

(文責・白井孝)

.....

また、このような話題もありました

＜外国人の町内会入会や町内の決まり事等の理解不足や協調性のなさも目立ち始めている＞  
(まだ事件は発生していないが)最近、多国籍の住民が多くなってきている。町内活動の不参加や争い事が起きるのではと心配する声もある。

(文責・白井孝)



#### ◆お知らせ

重俊院様よりご寄付をいただきました。ありがとうございます。

★★★★★★

来る2026年は<sup>ひのえうま</sup>丙午の年です。

良いお年をお迎えください。

来年は和暦で 平成38年

昭和101年

大正115年

明治159年

76号-4



折り紙 <ペガサス>